6月定例会では、議員6名・11件の一般質問を行いました。



水野洋一議員

質問①
日高広域交通バスの利用促進について

問 4月1日から運行開始されたバスの利用状況について、このバスの運行費用と、日高広域連携推進協議会、日高広域連携推進協議会の関係について、利用拡大等の課題検討は、どの機関がどのようにされるのか、またその解決方策について。

答 運行が開始されて約3カ月となるが、利用状況はあまり芳しくない。新設された苫小牧への直行便、特急については、5月16日までの集計で日高管内全体の往復で、4月の乗車人員が1便平均4．07人。5月が3．2人となっている。様似町においては、4月が1便あたり1人、5月が0．8人である。また、えりも町から新ひだか町までの路線バスの1便平均乗車人員は、上り8．7人、下り7．6人である。

日高広域連携推進協議会は北海道の事業で、広域連携加速化事業という5年間の事業があり、令和2年度に設置された組織で、行政サービスを持続的に提供するため、広域的な視点で連携のあり方について、共同調査研究することを目的としている。この協議会の下部の部会の中の作業部会において、令和2年度の事業として、今回、管内各戸に配布された広域公共バス時刻表の配布等がある。一方、JR日高線鵡川様似間の廃止に伴い、広域公共交通を持続的に確保するための協議会として、「日高地域広域公共交通確保対策協議会」を組織した。JR北海道からの拠出金の管理もこの協議会で管理する。バス運行に係る費用においては、この協議会の令和3年度予算ベースでの費用として、バス事業者への各種補助金では、約3億6，000万円。内訳として、車両や付帯設備等の初期投資で約2億7，100万円。初年度の欠損補助金分として約9，500万円を見込んでいる。

課題等の検討は、日高地域広域公共交通確保対策協議会で協議していく。この協議会は、管内7町長の他にオブザーバーとしてJR北海道、バス事業者、北海道の参加もあり、それぞれの立場から意見や協力を頂く中で進めていく。本年度においては、



～日高住民の足となりうるか～

利便性の向上のため、利用者等の声を聞くアンケート調査を実施する。

質問②
防災無線の利活用等について

問 防災無線の利活用の基準・内規等の有無について、現在防災無線の室内個別受信機の設置状況（地域別）について、個別受信機を未設置全戸に設置した時の費用について、町民が個別受信機を有料・自己負担で希望した場合、町は斡旋するかについて。

答 様似町無線局管理運用規則及び規程に基づき防災無線を運用している。

会所町の難聴世帯で10台、冬島自治会で45台（住所が平宇も含む）幌満自治会で24台、旭自治会で41台の計120台設置（この中には、昆布小屋にも1台の要望あり、自費で設置）。

令和元年度に設置した際の1台あたりの費用は約6万2，000円なので、5月末世帯数から設置されている世帯数を差し引いた、未設置世帯は2，021世帯となり、その費用は1億2，530万2，000円となる。ただし、岡田、田代、西様似等の山間部のエリアについては、電波の調査結果により新たな中継局の設置が必要と思われ、別途相当な費用が必要。

これまで町費にて設置している現状に照らして、不公平な部分が出てくるかと思うので、斡旋する考えは持っていない。



▲ 防災行政無線受信機



佐々木敏議員

質問①
アポイ山麓自然公園の整備について

問 施設、遊具の整備・増設についてどのように考えているのかお伺いします。

答 アポイ山麓自然公園につきましては、昭和53年に完成以来、多くの方に利用されてきており、現在運営している遊具については、ミニゴルフ、ゴーカート、バッテリーカー等の有料遊具と平成29年に設置した木製の遊具です。

特にミニゴルフ、ゴーカートは、老朽化が著しく、今後も運営していく場合は更新が必要となりますが、現状では増設の予定はないので可能な限り活用していきたいと考えています。

また、自然を生かしたソフトプログラムを活用するのも良いかと考えています。

本年度、本町の観光方向について戦略を策定する予定なので、多くの方にご意見をいただいたなかで進めさせていただき、議会においてもご協議させていただきたい。

問 土日は家族連れも多く来ているが、幼児や小学校低学年が遊ぶ遊具がなく、ブランコも今時のチャイルドシートタイプではない。

少子化とはいえ、様似で生まれて歩き始めてお弁当を持って遊びに行く場所がない。

芝生の広場もシカの糞が多く、安心して遊ばせられないが、管理も含めてどう考えているのかお伺いします。



～子どもたちの笑い声が響く日はいつに～

答 ここの公園はアポイ山麓ファミリーパークという愛称もあるので、ファミリー向けという公園の目的もあるかと考えており、小さい子供向けの遊具が必要ということになれば更新したいと考えています。

広場のシカの糞についても清掃等管理を日々行っていますが、今後も気を付けて対応していきたい。

問 国立公園化に向けて新たな事業計画があるのかお伺いします。

答 日高山脈襟裳国定公園の国立公園化に関しては、本年度中に国立公園とする予定で環境省が進めていますが、現時点でアポイ山麓自然公園で国立公園化に向けての明確な新規事業計画はありません。

現在ある施設を基にして、環境省と町とで協議した中で公園計画の中にある施設計画を検討していくことになりますので、今後、示される公園計画の素案を基に、将来的な公園イメージに大きな過不足がないよう環境省と協議していきたい。

問 現時点で新規事業はないとのことですが、例えば公園にたくさんの桜の木を植樹して「アポイ千本桜」と称し、10年、20年、30年後に日高、北海道、日本の桜の名所にする事業はどうですか。植樹は小学生、中学生が行い、それぞれに年月日と名前のプレートを付け、何年か後に様似を離れても、成人したり家族を持った時に自分が植樹した桜を見に帰ってくることや、成人式や結婚、出産等の記念や札幌様似会、東京様似会など、様似を離れている方が桜を植樹することにより、将来人口は減少していくかもしれませんが、昔、観音山が桜でピンクの山になり町民の憩いの場であったように、アポイの公園もそのようになればと考えますがいかがでしょうか、お伺いします。



～日本の桜の名所に～

答 要望ということですがどのような整備がいいのかというところも踏まえて取り組みたいですし、アポイ山荘の下の道路にも経済同友会さんが植樹をされているという経緯もありますので、どういう形でできるか前向きに検討させていただきたい。

是非実現に向けた検討をしていただきたいし、教育長からも小学校、中学校にも働きかけていただければ大変ありがたい。